



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2019年(平成31年)4月25日号 No.1791

目次

■ 2018年のロシア・NIS諸国の経済(下)	1
■ 『ロシアNIS調査月報』2019年5月号のご紹介	10
■ キーパーソン	11
ウクライナ大統領選決選、タレント候補が勝利／11	
■ トピックス	11
INPEXがアゼルバイジャンで追加開発／11	
カザフ次期大統領選、与党候補にトカエフ氏／11	
日野自動車、ロシア新工場の起工式を実施／12	

2018年のロシア・NIS諸国の経済(下)

はじめに

前回に引き続き、CIS統計委員会および各国統計局発表のデータ等に基づき、2018年の経済実績を中心に、NIS諸国の最新の経済情勢についてのレビューを行う。

今回は、全13カ国の主要経済指標を表にまとめて掲載するとともに、ロシア・NIS全般、ロシア、ウクライナ、ベラルーシ、モルドバについての解説をお届けした。今号では中央アジア諸国(カザフスタン、キルギス、ウズベキスタン、トルクメニスタン、タジキスタン)、南コーカサス諸国(アゼルバイジャン、アルメニア、ジョージア)、モンゴルを扱う。

カザフスタン： 積み増された社会的公約は次期大統領の手に

2018年10月、ナザルバエフ大統領は『国民福祉の向上：所得拡大と生活の質的向上』と題し、当年2度目となる教書演説を行った。タイトルが示す通り、その内容は年初の『第4次産業革命下の新しいチャンス』あるいは前年の『カザフスタンの第三次近代化』とは打って変わり社会分野に力点を置いたもので、2019年初めからの最低賃金の50%引き上げ、公共料金改革、教育・医療・住宅整備等分野への財政投入強化の方針を打ち出した。

これまでもナザルバエフ大統領は本来の1月ではなく前年のうちに教書演説を実施したことはあるが、それはいずれも油価の急落等で経済が危機的状況に陥った時であった。しかし2018年のカザフスタン経済はGDP対前年比4.1%増と至って堅調であり、鉱工業生産は前年の7.1%増には及ばないものの、9,040万tと史上最高を更新した石油生産を受けて4.1%増と引き続き高い伸びを示した。石油が大半を占める輸出も当然好調で25.7%増、一方輸入は通貨テンゲの為替レート下落を